

会 議 録

会議の名称	平成30年度 飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク 第1回全体会議
開催日時	平成30年11月12日(月) 15時から17時まで
開催場所	飯塚市役所穂波庁舎4階 市民会議室1-1・1-2
出席委員	野上委員、辻田委員、山梨委員、木山委員、廣瀬委員、許斐委員、石田委員、丸野委員、五島委員、石和委員、藤嶋委員、安藤委員、伊藤委員、江藤委員
欠席委員	小山委員、貝嶋委員
事務局職員	梶原・渡邊(飯塚市社会・障がい者福祉課)、福田(嘉麻市社会福祉課)、川野・栗山(桂川町健康福祉課)、高橋、毛利(児童発達支援センターミーティアス)石本、彦田、真田、小野、森田、寺敷、小出(飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター) 在宅医療ケア部会部会長 大矢(飯塚病院小児科医師)
会議内容	<p>・定刻に至り会の成立を認め、飯塚市社会・障がい者福祉課課長よりあいさつ</p> <p>・会長・副会長の互選を行い、会長に丸野委員、副会長に野上委員が選任</p> <p>議 題(1) 自立支援ネットワークの活動</p> <p>① 自立支援ネットワークについて</p> <p>② 専門部会(相談支援部会)</p> <p>③ 専門部会(在宅医療ケア部会)</p> <p>④ 就労支援分野</p> <p>⑤ その他の活動(障がい者理解啓発講演会について)</p> <p>以上について、資料1を基にそれぞれの担当者より活動の報告がなされる。</p> <p>※資料の訂正</p> <p>資料1 P6 相談部会の開催頻度 ×「2回/月」→ ○「1回/2月」</p> <p>【議長】 就労分野において、色々活動をされているが専門部会になっていないのはなぜか。</p> <p>【事務局】 就労分野は支援が多岐に渡っており、まだ課題を抽出している段階。A型・B型は今年度から意見交換を開催し意見を集めている。特別支援学校を卒業する方の進路の件などは学校と意見交換会をし、連携できるようになってきたが、協議会としてどこに焦点を当てて取り組んでいくのかまだ定め切れていない。</p>

議題(2)

飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター等運営事業事務局より事業の検証について、資料2に沿って根拠法、評価の目的について説明。

- ① 基幹相談支援センター
- ② 相談支援機能強化事業

続いて、それぞれの担当者から資料3・4を基に平成29年度相談支援事業の報告及び平成30年度計画について説明がなされる。

意見交換

【委員】最近感じていることについて。精神科病棟の7割を認知症の患者が占めているらしい、またB型事業所やグループホームを利用している精神障がい者の割合が減っているらしい。精神障がい者が利用しにくく排除されていることを知った。精神障がい者はどこでどのように生活しているのか。家族の中に閉じ込められているのか。そのような状況が家族に全く伝わってこない。怒りをもっている。それと、中央官庁の障がい者雇用率の問題が起こっている。中央官庁はあてにせず、各行政で前向きに取り組んでいる姿勢を示してほしい。これ以上の不信感を今まで抱いたことはない。自治体はどのように感じているのか。お金がないのは理解しているが、前向きな姿勢があれば私たちも協力できる。

【議長】精神障がい者のデータについては全国的なものなのか、圏域的なものかがわからないが、精神障がい者の退院は早期退院傾向にあり、高齢者への移行は確かに問題になっている。施設は入所施設ではなく、グループホームか在宅かとなっているであろう。

【委員】雇用率の問題については、ずさんな役所の体制であり、使命を持って入っているが残念でならない。私たちが姿を示していきたい。4,000人雇うと言っているがそれが理想で終わらないようしっかりと大きな問題提起としてとらえている。

【委員】(飯塚市)平成30年度の雇用率について人事課でも調査をしており、各課においても分野別に調べており平成30年度はなんとか充足している。法定雇用率が上がればまた採用する方向。

【委員】(嘉麻市)具体的な数は把握していないが、定期的に雇用はしている様子。それは継続してやっていくつもり。事後障がいになる方もおられる。

【委員】(桂川町)正確な数は把握していないが、目標達成はしていない。国の方針に基づきしないといけないが、実現できてないのが現状。仕事をしていて障がいになられる方もいて周囲がサポートしながらしている。推進

	<p>していかないといけないことは自治体としても分かっているので以後検討していきたい。</p> <p>【委員】雇われている方は身体障がい者が多く、合理的配慮という観点で行政でも知的障がい者や神障がい者の雇用も検討してもらいたい。</p> <p>【委員】地域で生活している精神障がい者の全国調査で、就労ができると思っている人が減っているというデータがある。親亡き後、何が一番多いかというとアパートでの単身生活が多い。生活の分離、周りの支援がなくなっていき、自分が追い詰められた時に地域で一人でやっていこうと変わっていく。依存・甘えの生活から変わらないといけない。そこが一番ハード。施設、親にも問題がある、もちろん本人にも。一人で生活が送れるようにするには支援を深くしないようにした方がいいと思う。</p> <p>【委員】在宅医療ケア部会、相談部会で災害の件が共通で話題にあがっていると思うが、行政の防災担当の方からアドバイスいただく機会を各部会でいただけたらと思う。それぞれで同じ取組をしているのでリンクできればいいのでは。</p> <p>【委員】相談支援部会などで人材不足と話があったが、人材が不足すると良い支援はできなくなる。保健所も基幹にお世話になっているが、基幹の人材が少なくなっているとも聞く。委託側などでも人材養成など挺入れが必要。検討してほしい。</p>
	<p>資料1 「飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワークの活動について」</p> <p>資料2 「飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター等運営事業の検証について」</p> <p>資料3 「飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター等運営事業 平成29年度実施報告・平成30年度実施計画」</p> <p>資料4 「機能強化事業の紹介」</p>
公開・非公開の別	<p>1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者なし)</p>
その他	